

**ゆきさま**

先日は講義の機会をいただき、本当にありがとうございました。

いただいた感想を読ませていただきましたが、どれも深くて、素直で、胸に響くものばかりでした。

在宅での介護の原体験、精神医療の現状への疑問、制度の複雑さへの戸惑い、ご家族の看取りを通じての気づき……それぞれの立場から真剣に考えてくださっていて、読んでいて私のほうが学ばされる思いでした。世界の医療の話が、皆さんのが視野を少しでも広げるきっかけになったのであれば、とても嬉しいです。

こんなに率直で前向きな感想をいただけるとは思っておらず、講演させていただいたことを改めて光栄に感じています。大熊先生が育てておられる皆さんの雰囲気の良さをしっかり感じました。

またぜひ、気軽にお声がけいただければ嬉しいです。

今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

—

(医) 原土井病院 理事長 原祐一

=====

**ゆき先生**

すべて読ませていただきました。

私自身もレポートやお手紙を読ませていただき、最近仕事で疲れている心と体に元気をいただいたように感じました。

以前送っていただいたものを含め、すべてメモ帳に貼り直して手元に保存しました。

このたびはお心遣い、本当にありがとうございました。

これからも何卒よろしくお願ひいたします。

**守田 稔**

=====

**ゆきちゃん先生**

先日はお疲れさまでした。

昨日、北海道厚生局の医療安全 WS がありました。講演者のお一人が身体拘束最小限の取り組みを話されました。お昼休みにその方を含めた医療安全に携わる人たちで意見交換を行いました。

日本における高齢者の身体拘束については、その背景にある過剰な延命治療が大きく

**影響していると思います。欧米では、北欧を中心に食べられなくなった高齢者にはお迎えが来たということで胃管はもちろん点滴も行いません。高齢者認知症に対して点滴も胃管も入れなければ、拘束する理由はほぼなくなります。転倒はありますが、無意味な医療行為をやめることにより看護・介護の手に余裕ができれば拘束することなく転倒や転落の予防ができます。**

**急性期でコントロール不可能な統合失調、短期間で自殺企図を頻回に行う患者、大手術の術後せん妄で一瞬たりともチューブを抜くことが出来ない患者など、拘束せざるを得ない患者（もちろん必要最低限）は一定数は存在するのだと思いますが、いわゆる老人病院での拘束については、上記のような背景が大きく影響しているのだと思います。無意味な延命治療をやめるには、「老人・介護ビジネス」を行っている医療者をなくすことと国民の死生観の醸成の両方が必要なのではないでしょうか。**

**発表の中で医療職がミトンや拘束帯を装着する疑似体験を行ったとありました。近いうちに私も体験しようと思っています。**

**札幌は土曜日から火曜日まで毎日みぞれでした。昨日から少し暖かくなり、ほとんど雪は溶けました。**

**時節柄、ご自愛ください。**

**北海道大学病院長  
医療安全管理部教授  
南須原康行**

=====

ゆきさま

レポートをお送りくださった皆さんと私は同胞！

祖国日本を皆さんのが深く愛していることを知り得て感激・感動いたしております。

皆様、心から御礼申し上げます！

そして、眞の民主主義国家建設へと闘い続けましょう。

皆様のお子さん、お孫さんたちから「お父さん、お母さん、おばあちゃん、おじいちゃん幸せな国日本を作ってくれてありがとう！」の声が聞ける日が早く来る事を祈願いたします。

11月24日朝ブラインドを開けると外は雪化粧をしておりました。初雪です。

映子さんの疑問にお答えします。

**①デンマークの地方議会は夜開かれます。現職の教員、警察官、看護師、学生等誰でも議員になれるのは「夢は夜る開かれる」からです！**

それでお得意の専門分野で自分自身がしっかりした情報を持っているので行政官に資料作成を依頼する手間が省けるといえます。地方議員は日本のように公務員ではありませんので議員給料はありませんが議会時での実労働時間に

対する手当、交通費などは支払われます。なお、市長は議席獲得数の多い政党から選出され、市長はフルタイムの給料が支払われます。国會議員は全員公務員であり有給です。国會議員の政治生命は国民の生活、市会議員の政治生命は市民の生活を守ることです。

**②労働時間が日本より短いデンマークが GDP では日本より上。**

経済競争力が世界 1 位の国、海運会社、風力発電、製薬会社、レゴ（玩具）などデンマーク独自のアイデアで世界と競争しなくてもよい効率よい仕事をしているのがデンマーク人です。1 週間の労働時間は 37 時間、残業無、週休 2 日、祝祭日は休み、年休 6 週間、一般労働者の教育レベルが高いのも強みです。学歴社会より実力社会、子供が学校の先生に NO、職場の上司に NO といえる社会に浸透した教育が功を奏しているのでしょう。

**③素敵な資源？**デンマークは食べ物が豊富にある国です。豊富にある食べ物は人の心を豊かにします。自給率が 300% 近いデンマークと 40% 以下の飽食の国とは人の心も違うようですね。

北欧の霜月、外はまだ小雪が舞っています。

千葉忠夫

---

**ゆき先生**

メールどうもありがとうございました。

第二弾と今回のと、全て拝読させて頂きました。

第一弾から全体を通して、皆さんとても真摯で真剣に社会保障をどう良くしていくか、どうやって改善しながら持続していくか、真っ直ぐに向き合っておられ、敬服します。

高額療養費の節減問題の検討につき、実地に取り組まれた方が、現場（患者）の声はジャーナリズムや政治で報じられているものとはかなり違うとおっしゃっていたお話もとても印象的でした。かつて別の講演で知り合った高齢の方から、日本はこれこれしかじかだから年金を上手に削るしかない辻説法しているが、多くの高齢者からその通りだと言われていますよ、高齢者は報じられているほど欲張りなんかではありませんよ…とメールを頂いたのを思い出します。

そんな話にばかり都合よく耳を傾けていてもいけないと心得ますが、財務省ないし政府が、やや造られた世論に怯えすぎて、説明責任を全うしていないのは、本当に問題だと思いますし、私のような捨て身の職員の個人プレーとか、財務省の独り旅とかではなく、もっと厚労省や総務省や自治体などとスクラムを組んでしっかり「不都合な真実（少子高齢化による中福祉-低負担の構造）」を逃げずに発信せねばならないと痛感しますし、更には義務教育（文科省）とも連携してきちんと社会の構成員みんなの基礎知識・共通認識にしないといけないと、思いを新たにさせられました。

どうもありがとうございました。

矢野 康治